

清須市地域公共交通会議

平成18年6月26日設置

フィーダー系統 平成25年6月19日NW計画策定

平成26年2月6日NW計画改定

①協議会が目指す方向性(Plan)

平成17年7月に旧西枇杷島町・旧清洲町・旧新川町の3町合併により誕生した清須市の市域内には、鉄道駅はありますが、バス路線はほぼ無い状態で、市内移動のための交通手段は貧弱でした。

従って、市内の公共施設などへの移動手段として、また、高齢者や主婦層などの日中の市内移動の利便性を高め、もって市としての一体感を醸成するため、平成18年10月からコミュニティバスの実証実験・実証運行を開始しました。

さらに、鉄道駅・バス路線が全く存在していない旧春日町との2度目の合併(平成21年10月)に対応するため、「移動制約者対策」を念頭に置きながら、「新市の地域間交流を促進し一体感を醸成する」という視点と、「公共施設の再編に伴う市内移動の新たな導線に対応する」という視点から、平成21年3月に「清須市地域公共交通戦略」(以下「戦略」という。)を策定しました。

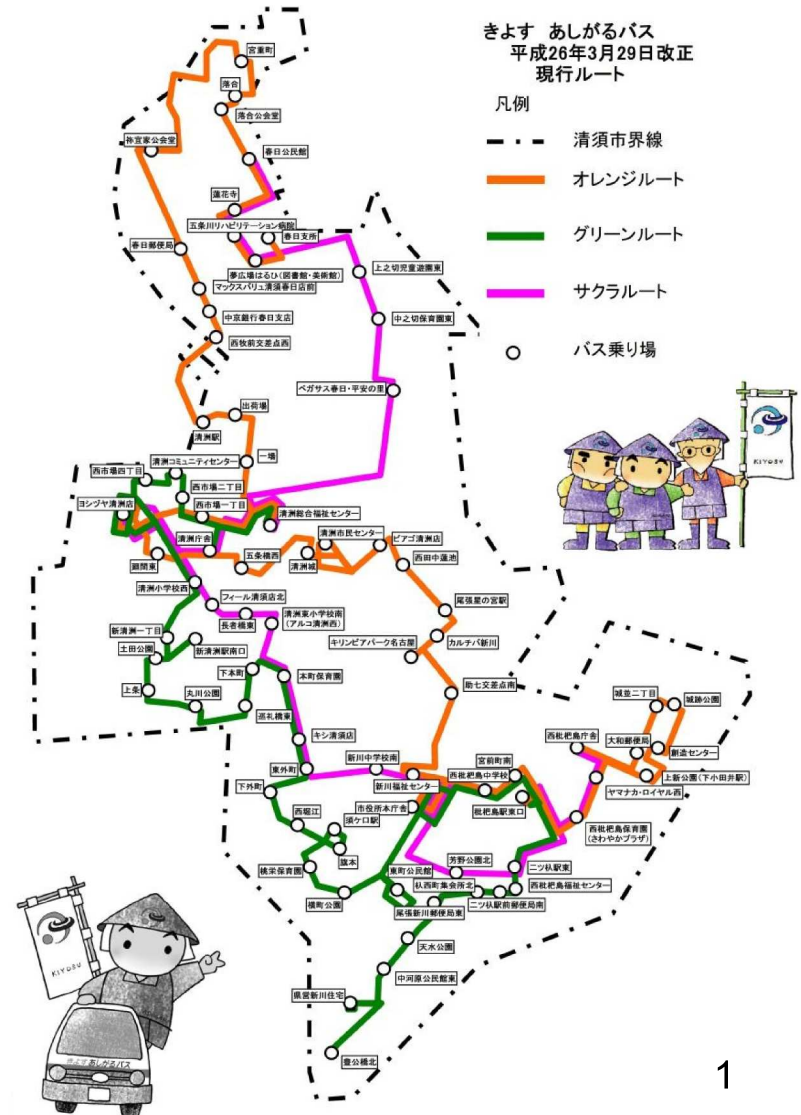
このうち、公共交通に関わる部分を抽出した「清須市地域公共交通総合連携計画」(以下「連携計画」という。)に基づき、地域公共交通活性化・再生総合事業(経過措置)を活用して、平成24年3月までコミュニティバスの実証運行を行いました。

この実証運行期間中における利用状況やアンケートの分析結果などから、高齢者や主婦層などが商業施設や鉄道駅へ行くための利用が多いことが明らかになり、移動制約者の交通手段を確保し、市内の移動利便性を高めるというコミュニティバスの運行目的と合致していることが確認できました。

これを受けて、平成24年3月には、戦略を平成24年度から26年度まで継続することを決定しました。そして、平成24年7月6日までは、それまでの連携計画に基づく運行事業を引き継ぎ、平成24年7月7日以降は、連携計画の一部を改正すると同時に「清須市生活交通ネットワーク計画」(以下「ネットワーク計画」という。)を策定しました。

このネットワーク計画は、市内の公共交通圏の人口カバー率を向上させ、今後進めていく公共施設の集約・再配置を支援し、市域内及び市域外との公共交通利便性を高めるために策定しております。

今後も、ネットワーク計画に基づき、清須市地域公共交通会議において協議・承認された地域公共交通確保維持事業(コミュニティバス運行事業)に取り組みます。



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

運行期間	【ルート改正前】 平成25年10月1日～平成26年3月28日	【ルート改正後】 平成26年3月29日～平成26年9月30日	時期	取組内容
運行区域	≪オレンジルート≫ 主に市北部とJR枇杷島駅・清洲駅を接続 ≪グリーンルート≫ 主に市南部とJR枇杷島駅、名鉄須ヶ口駅を接続 ≪サクラルート≫ 主に市中央部・図書館とJR枇杷島駅を接続	≪オレンジルート≫ 主に市北部とJR枇杷島駅・清洲駅を接続 ≪グリーンルート≫ 主に市南部とJR枇杷島駅、名鉄須ヶ口駅を接続 ≪サクラルート≫ 主に市中央部・図書館とJR枇杷島駅を接続	平成25年12月	■地域公共交通会議 ・新ルートダイヤ改正協議
運行便数	≪オレンジルート≫ 6便/日 ≪グリーンルート≫ 10便/日 ≪サクラルート≫ 10便/日	≪オレンジルート≫ 6便/日 ≪グリーンルート≫ 10便/日 ≪サクラルート≫ 10便/日	平成26年 2月 平成26年 3月	■地域公共交通会議 ・新ルートダイヤ改正協議 ・NW計画改正協議 ■利用者アンケート調査 ■ルート・ダイヤ改正 ■オレンジルート及びグリーンルートにバリアフリー対応の新車両導入
運行車両	ハイエース(12人乗り×2両) ポンチョ(28人乗り×1両)	ハイエース(8人乗り×2両) ※バリアフリー対応の新車両導入 ポンチョ(28人乗り×1両)	平成26年 8月 平成26年 9月	■プロポーザルによる運行主体候補者選定 ■運行主体候補者特定 (平成29年9月末まで) ■利用者・非利用者アンケート
備考	 サクラルート車両	 オレンジルート及びグリーンルート バリアフリー対応の新車両	市域内の公共交通利便性を高めるとともに、市域内にあるJR・名古屋鉄道・東海交通事業城北線の鉄道駅と接続することにより、より広域的な公共交通ネットワークを構築するための計画として「清須市生活交通ネットワーク計画」を策定し、その計画に基づくコミュニティバスの運行事業に取り組んでいます。	

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

● 市域内公共交通ネットワークと広域的公共交通ネットワークとの連携

	コミュニティバス 総乗降者数 (総利用者数)	鉄道駅バス乗降者数及びコミュニティバス総乗降者数における割合				
		駅合計	J R 枇杷島駅	J R 清洲駅	名鉄 須ヶ口駅	その他の鉄道駅 (名鉄新清洲駅・ニツ秋駅・下小田井駅、城北線尾張星の宮駅)
平成25年10月～ 平成26年9月	83,432人 (41,716人)	12,830人 (15.4%)	5,415人 (6.5%)	2,259人 (2.7%)	1,251人 (1.5%)	3,905人 (4.7%)

● 駅までの交通手段として、バスが利用されており、接続する駅との乗り継ぎ効果が表れています。

● コミュニティバスの利用状況

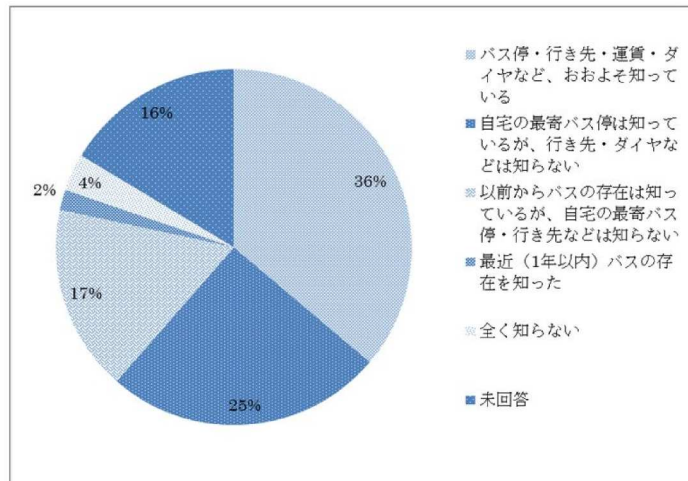
	年間利用者数		1便あたり利用者数	
	平成25年10月～平成26年9月		平成25年10月～平成26年9月	
	目標値	利用者数	目標値	利用者数
オレンジルート	9,190人	9,984人	4.0人	4.6人
グリーンルート	15,320人	16,007人	4.0人	4.5人
サクラルート	15,320人	15,725人	4.0人	4.4人
計	39,830人	41,716人	4.0人	4.5人

● 年間利用者数及び1便あたり利用者数とも目標値を上回りました。

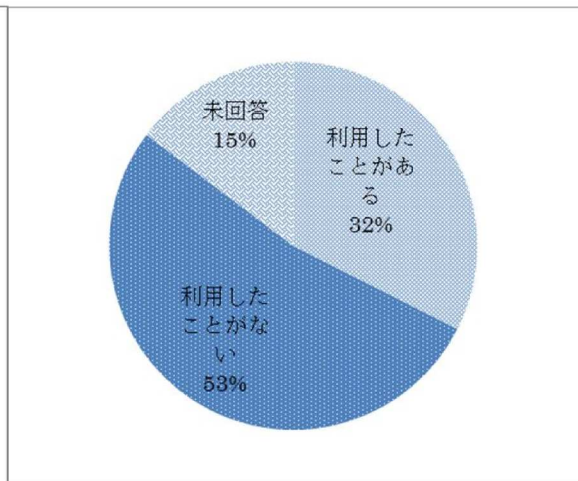
● 下記のアンケート結果からみると、

- ・バスの存在を知っているという回答は80%であり、バスがある程度認知されているといえます。
- ・バスを「利用したことがない」という回答が50%を超えています。
- ・「乗り継ぎができることを知らなかった」という回答は3%であり、乗り継ぎ自体は浸透しているといえますが、「利用したことがない」という回答は70%となっています。

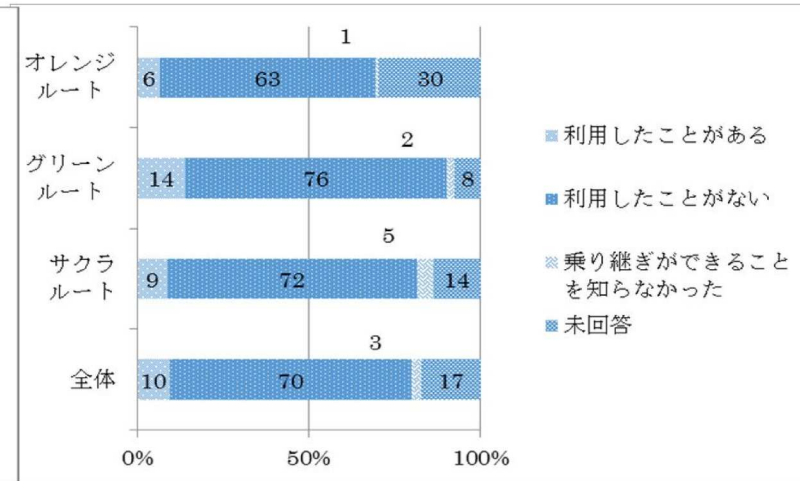
● コミュニティバス利用者・非利用者アンケート調査結果



【非利用者のバスの認知度】



【非利用者のバスの利用度】



【利用者の乗り継ぎの利用度・認知度】

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

利用者・非利用者アンケート調査結果からも分かるように、平成24年7月に導入した車両が、それまでの運行車両に比べて大型で目立つようになったこと(ハイエースからポンチョに変更)などが要因となり、バスの存在が広く認知されています。

また、バスの乗り継ぎができることも広く認知されています。

しかしながら、次のとおり課題が見受けられるため対応策を検討しました。

課 題	課題の対応
バスの存在は知っていても、バスを利用したことがない方が多い。	大型バスを活用して、市内にて開催されている伝統的な祭り等のイベント時にバス展示等のPR活動を実施し、更なるバスの認知度向上、新規利用者の増加を促進していきます。
バスの乗り継ぎができることは浸透しているが、バスの乗り継ぎを利用する方は少ない。	時刻表に、乗り継ぎをPRするチラシを添付するなどして、乗り継ぎ方法、乗り継ぎの利便性の浸透を図るとともに、乗り継ぎの利用を促進していきます。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

- 平成26年3月に車両2台を導入し、全車(3車両)がバリアフリー対応となりました。
- バス停標識、ルート・ダイヤ改正時に作成する時刻表・全体ルート図及び車両に広告枠を設け、運賃収入以外の自主財源の確保に努めています。
- 冗長なルート設定にならないように、乗り継ぎによるアクセス方法を選択し、乗り継ぎが可能であることを分かりやすくするため、乗り継ぎポイントとなるバス停の発車時刻を揃えるダイヤ編成としています。
- 他の便に乗り継ぐ際は、運転手同士が無線を活用して発車時刻を調整するなどして、利用者の利便性を損なわないように取り組んでいます。
- イベント時のバス展示等のPR活動に際し、事前にイベントチラシを通じて周知を図りました。(イベント開催は平成26年10月)

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(一次評価)結果報告

平成 年 月 日

協議会名:	清須市地域公共交通会議
-------	-------------

実施事業:	確保維持事業				バリア解消促進等事業			調査等事業		
	幹線	フィーダー	離島航路	離島航空路	バリアフリー	利用環境改善	鉄道安全	調査	再編調査	協働推進
		○								

※実施した事業に○をつけてください。

地域の交通の目指す姿:	<p>清須市生活交通ネットワーク計画は、市内の公共交通圏の人口カバー率を向上させ、今後進めていく公共施設の集約・再配置を支援し、市域内及び市域外との公共交通利便性を高めるために策定しております。</p> <p>今後もネットワーク計画に基づき、清須市地域公共交通会議において協議・承認された地域公共交通確保維持事業(コミュニティバス運行事業)に取り組みます。</p>
-------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名: 清須市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通ネットワーク計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通ネットワーク計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つばめ自動車株式会社	オレンジルート 1~5便及び6便 春日支所~清洲駅~枇杷島駅 ~西枇杷島庁舎 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	市域内公共交通ネットワークの連携強化を図るため、ルート・ダイヤ改正を実施する旨を記載。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標利用者数: 9,190人(1便当たり4人) 実績利用者数: 9,984人(1便当たり4.6人) 目標達成率:108.6%	次年度も目標を達成するため、OD調査やアンケート調査による利用者ニーズの把握や、利用促進策等を継続的に実施し、さらなる利用者数の増加を図っていく。
つばめ自動車株式会社	グリーンルート 1~8便及び9~10便 豊公橋北~枇杷島駅~須ヶ口駅~清洲総合福祉センター 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	市域内公共交通ネットワークの連携強化を図るため、ルート・ダイヤ改正を実施する旨を記載。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標利用者数: 15,320人(1便当たり4人) 実績利用者数: 16,007人(1便当たり4.5人) 目標達成率:104.5%	次年度も目標を達成するため、OD調査やアンケート調査による利用者ニーズの把握や、利用促進策等を継続的に実施し、さらなる利用者数の増加を図っていく。
つばめ自動車株式会社	サクラルート 1~8便及び9~10便 西枇杷島庁舎~枇杷島駅~春日公民館 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	市域内公共交通ネットワークの連携強化を図るため、ルート・ダイヤ改正を実施する旨を記載。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標利用者数: 15,320人(1便当たり4人) 実績利用者数: 15,725人(1便当たり4.4人) 目標達成率:102.6%	次年度も目標を達成するため、OD調査やアンケート調査による利用者ニーズの把握や、利用促進策等を継続的に実施し、さらなる利用者数の増加を図っていく。

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。